

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	60%	自校A B層の割合	55%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	47%	自校A B層の割合	48%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、OJTの充実 特別支援学級との交流 タブレット端末の効果的な活用を目指し、研修の機会を設定したり、教員同士での情報交換をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1度、SUT（スキルアップタイム）を活用し、計算や漢字の基礎基本の定着を図る。 低学年からの積み重ねを大切に、当該学年の学習内容の定着を徹底する。 東京ベーシックドリルの診断テストを年6回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の家庭学習週間における家庭学習目標時間（学年×10+15分）の定着 study week中のミライシードの活用
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 計画的なOJT研修の設定。研究授業以外に日常の指導の共有をし、若手教員の指導力向上を図る。 ICT支援員の効果的な活用をする。ICT活用について、効果的な実施の共有をする時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> CD層に対して、放課後補習教室と連携し、支援を行う。 ドリルパークを活用し、ベーシックドリルテストの結果を基に、苦手な問題練習に取り組む。 低学年において、教員を加配し、少人数算数を実施し、きめ細かく一人一人の学習状況を把握し、指導に生かす。 5・6年生でよむYOMUワークを活用し、読解力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルパークに家庭学習や長期休業中に課題を出す。 児童の特性に合った課題を出す。（毎日やり遂げた実感を得られるようにする。） ミライシードの進捗状況を確認し、賞賛・励ましをする。
成果指標	<p>全国学力調査 「授業の内容がよく分かりますか」 肯定的な回答</p> <p>80%以上</p>	<p>東京ベーシックドリルの診断テスト7割達成者</p> <p>60%以上</p>	<p>保護者向け、学校評価において項目『「あなたのお子さんは、家庭で「10分×学年+15分」の勉強に取り組んでいますか。』AB評価率</p> <p>90%以上</p>